

# TOYAMA Volley Ball Association News

平成16年11月 Vol.5  
発行 / 富山県バレーボール協会



## 平成16年度 全国社会人9人制バレーボール 男子優勝大会

日時：平成16年9月24日(金)～27日(月)  
会場：黒部市体育センター 他

大会副委員長 長谷川弘和

今年度、富山県開催の全国大会の一つである「全国社会人9人制男子優勝大会」が9月24日(金)～27日(月)に黒部市総合体育センターを中心に黒部市4会場で開催されました。

今回は黒部市制施行50周年、黒部市体育協会設立50年記念として、黒部市協会にとっても記念イベントとして取組み、行政と一体になり準備を進めてきました。

この大会は今回で第三回ですが、以前は産業人大会として長年皆様に親しまれた大会です。参加チームも全国の実業団、クラブチームの64チームと多く、役員も延べ640名余りと大変大きな規模で行われました。

今回は地元開催でもあり富山県からは予選一位のYKK、二位の南倶楽部、推薦で三位の滑川FVCの3チームが出場、3チームとも予選グループ戦突破、決勝トーナメントに駒を進めました。結果としてYKKが二回戦、南倶楽部、滑川FVCは一回戦で惜しくも負けましたが、全国の強豪を相手に善戦し大変良かったと思います。

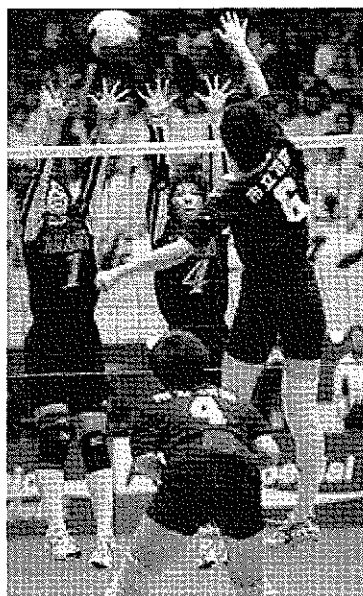
一方運営面では、特に補助役員で県家婦連、新川地区高校バレー部員、黒部市協会員の方々に協力していただき、4会場ともスムーズな運営ができたものと思います。

しかし、関係者も予知していない大会役員の事故発生は今後の大会事業を推進する上で危機管理に対する教訓となりました。

いずれにせよ、4日間に渡る大会は無事終了し成功しました。実行委員会の皆様に感謝申し上げます。

### 第35回全国高等学校校選抜優勝大会に出場して

高岡商業高校 三年 川原有美子



若さでアタック春の高校バレーに、2年ぶりに出場することができました。過去4回出場して、まだ1勝もしていません。今回その壁を破るべく代々木体育館に向かいました。

1回戦秋田代表の聖霊女子短大附高と対戦。この試合は、我慢比べとなる試合だと思い、気持ちを切らないことに気をつけました。何とか相手の粘りに負けず、春高1勝を成し遂げることが出来ました。この勢いのまま広島代表の市立沼田・熊本代表の信愛女学院と各県の伝統校を打ち破ることができ、県勢女子では初のベスト8に進出しました。準々決勝の相手は、全日本選手の木村や全日本ジュニアの主将佐藤選手など要し、3連覇を目指す東京代表の下北沢成徳高等学校です。試合は粘り強くボールをつなぎ戦う高商らしい試合ができましたが、セットカウント1対2で敗れました。この大会でたくさんの人に応援をして頂き大変幸せだと思いました。この感謝の気持ちを忘れず、これからも頑張っていきたいと思えます。

### 全日本B下ミニカ共和国遠征に参加して

高岡商業高校 三年 高崎紗緒梨

2月16日から26日まで中南米の島国ドミニカ共和国への遠征に参加してきました。ドミニカ共和国はバレーボールを国の強化指定競技としており、最近めきめきと力をつけてきている国だと聞いていました。到着した翌日から午前中は3セットの練習試合、午後は5セットの国際親善試合というメニューで合宿が行われました。試合は全日本の4勝2敗という結果でした。私は途中交代や2セット目からのスタメンということで試合に参加することができました。この遠征で感じたことは、相手チームの身長の高さです。私より大きい選手ばかりでした。そういうチームと戦うときは、サーブやレシーブの強化を図り、パワー負けしない身体と頭脳あるプレーを行うことが大切だと思いました。この遠征で経験したことを、これからの練習に役立てていきたいと思えます。また、この遠征に参加させて頂いたことに感謝したいと思います。



### 第12回アジアジュニア女子選手権大会に参加して

高岡商業高校 三年 高崎紗緒梨

アジアジュニア女子選手権大会は9月16日からスリランカで開催されました。この大会に向け、Vリーグのチームと練習ゲームなど行う国内合宿を14日間行い、スリランカに出発しました。

試合は予選リーグを1位で通過し、準決勝は台湾をストレートで下し、決勝進出を決めました。決勝の相手は予選リーグで3対1で勝った中国となりました。中国は予選と違い、日本の攻撃を高いブロックでシャットし、エースがマークされ、日本の攻撃が機能しないという展開で、0対3で負け、準優勝となりました。

私はすべての試合にスタメンレフトで出場することができチームにも貢献できたと思えます。決勝は高いブロックにも果敢に攻めることができたと思えますが、他の選手が苦しんでいるときに、ボールを呼んで手助けできなかったことに悔いが残りました。

大会期間中に在スリランカ日本人の人たちの温かい声援や心遣いをいただき、とても感謝しています。そのおかげでこの大会で準優勝という成績が残せたのだと思えます。

私達にはこのように声援を送ってくれる人たちが世界中にいることを忘れず、また、この声援に応えられるように、もっと成長していきたいと思えます。



# 表彰

これまでのご尽力とご功績に対し、次の方々が表彰を受けられました。(※10月末現在)

## 旭日双光章

瀬川 健正 氏

## 財団法人日本バレーボール協会 表彰

石川 春樹 氏  
村上 博一 氏

## 北信越バレーボール連盟 表彰

浦島 宗信 氏  
二口 修 氏

# 全国都道府県対抗 中学バレーボール大会

## 富山県選手団 結団式について

JOCカップ第18回全国都道府県対抗中学バレーボール大会富山県選手団の結団式が、去る8月29日、黒部青少年の家で行われました。

富山県バレーボール協会東宗幸会長から選手に認定書が渡されました。東会長からの激励のことばの後、選手を代表して、堀和峰男子主将、牧野莉絵女子主将が誓いのことばを述べました。

### ○役員

団長 西川 友之 県協会理事長  
副団長 細野 義隆 県中体連専門部長  
老月 守 県協会副理事長  
総監督 竹内 康彦 県中体連専門委員長  
総務 宮本ふみ江 県中体連専門部長

### ○男子チームスタッフ

監督 宮本 浩哉  
コーチ 中野 文男

マネージャー 酒井 直人  
アシスタントコーチ 小畑 真美

### ○男子チーム選手(学校名)

① 堀 和峰 (桜井)  
2 向井 啓太 (志貴野)  
3 高口 純一 (小杉南)  
4 寺田 翔一 (藤ノ木)  
5 内橋 貴志 (宇奈月)  
6 北森 雄大 (小杉南)  
7 中島 浩平 (宇奈月)  
8 鳥山 大輔 (小杉)  
9 米田 哲郎 (小杉)  
10 大鷲 泰三 (北部)  
11 東 剛智 (平部)  
12 笹倉 大史 (北部)

### ○女子チームスタッフ

監督 白井 修之  
コーチ 榊 泰晴  
マネージャー 浦野 昭美  
アシスタントコーチ 藤井 一雄  
伊勢威知郎

### ○女子チーム選手(学校名)

1 杉本 彰乃 (高志野)  
2 中湊 紗希 (高志野)  
3 村井 葉月 (井波)  
4 牧野 莉絵 (奥田)  
5 上関 奈知 (芳野)  
6 岩城 由佳 (吉江)  
7 菅原 楓 (岩瀬)  
8 中端 沙織 (新庄)  
9 伊藤まどか (芳野)  
10 橘 美紗子 (宇奈月)  
11 稲場満理奈 (堀川)  
12 鶴野 真美 (吉江)



特に大きな選手はおらず、百八十センチ前後の選手が多いが、その分、レシーブやつなぎのできる選手が多い。拾ってつなぎ、緻密なバレーが得意である。練習を始めたばかりだが、元気がよく、仲がよい。声をかけ合い、お互いを伸ばし合い、本大会では一つでも多く勝てるようがんばっていききたい。  
(男子チーム監督 宮本浩哉)



例年に比べると際立った選手はいないが、キャプテンの牧野を中心とした全員バレーでベスト8を目指したい。  
(女子チーム監督 白井修之)

## 活動アラカルト

### 全国高校総体に出場して

高岡第一高校 主将 近藤 啓文



インターハイでは昨年、一昨年と2年連続でベスト16に入っており、今年も最低ベスト16、そして春の高校バレーで達成できなかったベスト8入りという目標を持って大会にのぞみました。予選リーグの初戦は春高バレーでベスト8入りした鹿児島商業でした。相手が決まった日から鹿児島商業の出場した試合のビデオを何度も

見て、攻撃パターンを調べ、相手をイメージして練習に励みました。試合当日、1セット目は、緊張から自分たちの力を出し切れずに負けてしまいました。2セット目は、序盤は自分たちの思い通りに試合を展開することが出来ました。しかし、終盤で逆転され緊張感が続かずに負けてしまいました。敗者復活戦に回った私たちは、ここで勝って目標を達成するのだと気持ちを切り替えて臨みました。しかし、波に乗れないうちに自分達のミスから、リズムを失い敗れてしまいました。3年生は最後の試合でしたが、1・2年生にとっては良い経験になりました。この経験を生かして、先輩の目標を越えられるようにがんばってきたいと思います。

## 中国高校総体を終えて

高岡龍谷高校女子バレーボール部

監督 竹澤 重美



相手のスパイクがコートに突き刺さり、4年ぶり13回目の高校総体の舞台は終わりを告げました。生徒にとっては、初めての全国大会で雰囲気は飲まれてしまい、自分たちの力を出し切れない部分もあったように思います。ただ、生徒一人ひとりの力を合わせる「龍谷バレー」を出せる環境を作り出せなかった、という後悔と、自分たちのバ

レーをやり遂げれば、全国でも十分に通用するという自信を得たとても大きな大会でした。

別所先生からチームを受け継ぎ、悩みながらつかんだ初めての全国大会は、「龍谷バレー」に新たな宿題を出された、という思いです。選手たちとともに、「龍谷バレー」の伝統を受け継ぎ、輝かしい1ページを書き加えていけるように、毎日頑張っていきたいと思っています。

## 全日本クラブカップ 男子選手権大会(6人制)

TTC 中山 正浩

夏の京都 福知山は暑かった。

7年連続出場が途絶えてからTTCとしては5年ぶりの全国クラブカップ出場で、前回のベスト16を上回る成績をと臨んだが、ベスト8の壁は厚かった。グループ戦では圧勝し、決勝トーナメント進出。しかし、2回戦で采配ミスからフルセットとなり、3回戦では疲れが出てしまったことが悔やまれる。特に、相手と同じ北信越の長野教員であっただけに勝ってミニ国体に臨みたかった。

来年からは、先輩方が残した成績を上回る事を目標に頑張りたい。

## 全日本クラブカップ 女子選手権大会(6人制)

パレスバレーボールクラブ

2年ぶりに出場した今大会は、県予選会でメンバーの何人かが別に登録している9人制チームのメンバーとして参加したことから、フルメンバーでの参加ができず多少不安な要素を抱えての出場となりました。

しかし、まず開会式でわがチーム手作りのプラカードが「優秀賞」を受賞する幸先のよいスタートを切り、予選グループ戦の初戦で試合巧者な広島クラッカーズには善戦しながらも0対2で敗れましたが、次のT・V・Cには2対0で快勝し、前回の予選敗退の雪辱を果たすことができました。

決勝トーナメントの第1回戦で群馬教員クラブと対戦し、1セット目は前半リードしながらも終盤で逆転されてジュニアに持ち込むも取られてしまい、2セット目はそのままリズムに乗ってしまった群馬と調子が出なくなったパレスとのプレーの差がそのまま点数の差となり0対2で敗退しました。

6人制、9人制、ビーチバレーといろいろなバレーボールを楽しんでいるパレスバレーボールクラブとしては、これからも多くの仲間と明るく元気なクラブチームとして活躍を続けていきたいと願っています。そして、その延長線上に今回のような全国大会出場の機会が巡ってくれば、これ以上の喜びはありません。

年齢や技術に関係なくバレーボールを楽しみたいと願っている方々の参加をお待ちしています。



## ペシカップ全日本小学生大会を振り返って

愛本バレーボールスポーツ少年団

監督 徳道 義孝

夢の全国大会に2年連続出場の栄誉に心引き締まる思いで8月7日に東京体育館で開会式に参加、感動と感激で胸を熱くし大会に挑みましたが、結果は選手の平均身長が一番小さく、大会では善戦しながらも決勝トーナメントには進出できませんでした。

今回の大会では、全国の仲間との交流などの経験をを通じて、子どもたちはさらに成長し、今後に生かされていくものと感ずることができた大会でもありました。



## ペシカップを振り返って

黒部キッズ 監督 目澤 仁

今年、念願のペシカップに出場することができた。4年ぶり4回目の全国大会である。過去の先輩たちに一步でも近づきたいと、気合を入れての東京入り。予選リーグ1日目は、1勝1敗でリーグ1位。その後、東京の名門ひまわりチームとのシード権獲得戦。1セット目は持ち味のコンビバレーで競り勝つものの、2セット目以降はサーブレシーブの乱れで逆転負けし

た。

予選リーグ2日目は、2勝でリーグ1位。その後、ベスト8をかけて石川の志雄チームとの対戦。相手は全国屈指のスーパーエース。試合は3セットにもつれ込む激戦。デュースの末、惜敗、ベスト8を逃した。

先輩たちには及ばなかったものの、富山県代表として精一杯戦った子供たちに心からの拍手。



## 全日本実業団男子選手権大会

北陸電力 監督 上野 利克

去る7月16日〜19日、熊本市において全日本9人制バレーボール実業団男子選手権大会が行われた。昨年準優勝ということもあり、今年は推薦出場によりシード権が与えられ決勝トーナメント2回戦からの出場となった。

相手は松下電工津（三重）との対戦だったが、初戦ということもありなかなか調子に乗りきれずフルセットまでもつれ込んだものの何とか勝利し、続く3回戦も強豪の横河電機（東京）をストレートで破りベスト8入りを決めた。

準々決勝では住友電工横浜（神奈川）に対し危なげ無くストレートで勝利したが、準決勝では第1シー

ドの住友電工（大阪）と対戦し、1、2セット共に相手の強烈なサーブで連続ポイントを許してしまい、ストレートで破れてしまった。

目標の3位入賞を果たしたものの、サーブやサーブレシーブなどまだまだ課題が残ったため、今後の練習ではそれらの強化に取り組んでいきたい。



## 全日本クラブカップ女子選手権大会（9人制）に出場して

氷見クラブ

8月に高知県で開催されたクラブカップに初出場し、チームワークと攻撃力を武器に予選リーグ突破を目指して挑んだ。南国の地での全国大会、どれも白熱した試合ばかりで、大舞台での心地よい緊張感を味わうことができた。

予選リーグでは高知代表と対戦し、地元勢に圧倒されながらも、2セット目からは粘りの氷見クラブで自分たちのリズムを取り戻し、フルセットの末、逆転勝利を収めた。

決勝トーナメント1回戦では京都代表に惜敗したが、全国で自分たちの実力を発揮するよい機会となり、



チームとして、個人として多くのことを学んだ。  
ここで味わった感動と悔しさを胸に、決勝トーナメントでの勝利という次なる目標に向かって練習に励んでいきたい。大好きな仲間と家族で臨んだ今大会は、一生忘れられない大切な宝物となった。

## 全国ママさんバレーボール 大会に出場して

滑川クラブ 滝川ひとみ

私たち滑川クラブは、第35回ママさんバレーボール全国大会（宮城県仙台市）に出場してまいりました。9月2日の開会式で始まり9月3日の交流試合、9月4日トーナメント戦の日程で行いました。

開会式では高円宮久子妃殿下のご臨席を賜り、盛大に行われ感慨深いものがありました。

試合結果ですが、交流試合はA組南古谷クラブ（埼玉）と0対2、D組中条クラブ（新潟）と0対2、トーナメント戦はB組とらまるレディース（香川）に0対2と三戦全敗でしたが、皆様の応援を自分たちの力に変えて悔いのない試合をしてまいりました。

A組、B組の



優勝チームと対戦し二度とない貴重な体験をさせて頂き、また試合後も他チームの試合観戦をし全国大会を肌で感じたことが、私たちの今後の糧として参考になりました。

## 全国社会人女子優勝大会に出場して

高岡クラブ

今大会、全国大会では初めての2回戦進出となりました。2回戦では前年度優勝チーム（東京都ギャラリー2）と対戦し、惜しくも敗れましたが、試合を楽しむことができました。というのは、チームの課題として練習しているワンタッチボールをトスにすること、サーブカットを安定させること、リバウンドをもらいチャンスを作ることなど。これらの成果が現れ、そこから得点に結びつけることができました。

また、アタッカー陣のしつこいブロックやセッターの絶妙なコンビが炸裂しました。若さとパワー漲るニューフエースらと味のあるプレーができるようになってきたベテラン？とのバランスがとれ始めた高岡クラブです。これからも応援よろしくお願いします。

## マスターズ大会(福島市)に出場して

県選抜男子 上田 彰

今回で4回目となるこの大会は、来年度富山県が開催県となります。今回の福島県大会もバレー中毒者の中年で中肉中背の男達？が20名近く集結し、本大会に挑みました。

昨年の和歌山県大会に続き、予選リーグの突破をまず目指し、1回戦に全京都チームと対戦した私達

でありましたが、2対0と完敗し、開き直りで挑んだ二回戦目も神奈川県チームに序盤リードを奪いながらも、コンビブレイや、レシーブにミスが出てしまい、2対0で負けてしまいました。

試合後に選手一同「あー、つまらない試合をしてしまったなー」と反省しきりでありました。

帰県後、完敗のショックからはすっかり立ち直り、無心でアップのダッシュを繰り返す仲間達を見て、皆、バレーバカばかりですね？ とにかく今後とも前向きに、一時は病に倒れられた高田監督も復活され、次の大会も「若さと馬鹿さう。」で戦っていきたい我がチームです。ただし、試合前の酒量はコントロールいたしましょうね。（思い出の喜多方より来年度は富山県開催です）

## マスターズ大会(福島市)に出場して

入善クラブ

入善クラブとして今回で二度目の参加となるマスターズ大会。入善町の九つのママさんバレーボールチームより選手を募り福島大会への参加となりました。

各チームでの練習や家庭の事情などで、週一回の練習もなかなか全員出席とはならず、ボールのつなぎなどに不安を残して本番を迎えることになりました。その結果、二戦二敗と残念な成績となりましたが、選手一人ひとりはこの大会に参加することにより、自分の目でレベルの高い試合を観戦でき、多く得るものがあったと思います。

来年は地元での大会開催が決定。福島大会での経験を生かし、是非、三回目の出場を勝ち取りたいと思います。その為には、まず、楽しく・元気に練習あるのみ！